

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
魚類・円口類
昆虫類
甲殻類
多足類
クモ目
軟体動物
扁形動物

(6) 昆虫類 ② チョウ目チョウ類

チョウ目チョウ類の昆虫は日本では320種以上が記録されているが、この中には季節風や台風により飛来した迷チョウや、迷チョウからの一時的発生種も含まれているため、土着種は300種より若干少ない種数になる。埼玉県からはこれまでに5科139種が記録されている。本書を刊行するにあたり、そこから外来種や迷入種などを除いた129種を対象に、本県における生息状況を調査した。その結果、その約49%にあたる63種をレッドリスト掲載種とした。この中で絶滅と判断された種は13種にものぼった。もともと埼玉県に土着していた在来種のうち、半数近くの種が生存を脅かされる状況となっていることになる。

これまでのチョウ目チョウ類の昆虫の掲載種数の変遷をみると、初版では40種、改訂版で46種、前版で58種、そして本書の63種と絶滅を危惧すべき状況にあるチョウ類は確実に増加していることが見てとれる。

この中には、ツマグロキチョウのように前版で絶滅種とされていたものが県内での生息が再確認されてレッドランクがCRに下がった種や、新たな生息地の発見や個体数の回復が見られてレッドリストから削除されたウラナミアカシジミやコムラサキなどの例もあるが、調査した多くの種について生息状況は悪化していることが明らかになった。

チョウ類としては今回7種が追加されたが、これらには草原や草地を伴う林縁や疎林に生息する種が多い。この原因は草地、草原の遷移が進み、草原性の環境が大きく変容してきた事実による。生息地の環境変化をもたらすものは、宅地や工場などの造成による生息地の喪失や田畑、果樹園での除草剤散布、里地里山の管理放棄による植物遷移の進行など様々な要因があり、あらゆる人為的な営みが結果として古来のチョウ類の生存を脅かしている。また、山間部でのニホンジカの採食影響による林床の荒廃もチョウ類の生存を脅かす大きな要因となっている。一方で緑の保全に対する社会の意識が高まり、行政や市民の自然保護活動などにより、積極的な緑地回復が図られ生息地の消滅に一定の歯止めがかかりつつある。

本県におけるチョウ類全般の傾向を見ると、かつては偶産以外には見られなかったナガサキアゲハやムラサキツバメなど南方系の種が定着するようになった。このことは営為の開発行為による環境変化だけでなく、温暖化の進行など地球規模の気象変動もチョウ類の生息環境に影響を及ぼしつつあることを示唆している。さらにホソオチョウやアカボシゴマダラなど外国原産種が定着しつつあり、外国との様々な交流が増大する中、今後、外国原産の種の増加が在来種の生存を脅かす一因になる可能性もある。

[付記] 次ページ以降の種ごとの解説において、形態や国内分布に関する項目は、白水（2007）および環境省（2015）を参照した。

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
魚類・円口類
昆虫類
甲殻類
多足類
クモ目
軟体動物
扁形動物

科名 シロチョウ科 埼玉県(2018) EX 環境省(2015) EN

和名 ヤマキチョウ

学名 *Gonepteryx rhamni maxima* Butler 指定状況 -

【形態】 前翅長 28～34mm、開長 55～62mm の中型種だがシロチョウとしてはやや大型の種。

【国内分布】 本州

【主な生息環境】 クロツバラの生える明るい開けた山地の草原。

【県内での生息状況】 これまでに川口市（1980年）、旧浦和市（現さいたま市、1958年）、横瀬町（1982年）、旧大滝村（現秩父市、1973年、1979年）で記録されている。川口市、さいたま市の記録は偶産であり、奥武蔵の記録も土着かどうかは明確でない。現在は奥秩父でも絶滅と考えられる。

【特記事項】 全国で非常に減少し、現在、生息が確認されているのは群馬、山梨、長野、岐阜、静岡の5県のみ。その他の県では近年記録されておらず、絶滅に近い状態となっている。東北には隔離分布をしていたが、すでに絶滅した可能性が高い。近県ランク 神奈川：絶滅危惧Ⅰ類（CR）、群馬：準絶滅危惧（NT）。

科名 シジミチョウ科 埼玉県(2018) EX 環境省(2015) NT

和名 キマダラルリツバメ

学名 *Spindasis takanonis* (Matsumura) 指定状況 -

【形態】 前翅長 13～16mm、開長 27～32mm の小型種。2本の尾状突起を有する独特の形状。

【国内分布】 本州。産地は陸中、会津地方、山梨県、飯田地方、近畿～中国地方など局地的。

【主な生息環境】 ハリブトシリアゲアリの造巣するアカマツ、クロマツ、ヤマザクラ、クワ、キリなどが本種の幼虫のホスト樹木となる。

【県内での生息状況】 県内の記録は1954年の旧名栗村（現飯能市）名郷の記録が唯一のものである。現在、この生息地は消滅しており、県内では絶滅した。

【特記事項】 近県ランク 栃木：絶滅危惧ⅠA（CR）、神奈川：絶滅危惧ⅠB（EN）、山梨：情報不足（DD）。福島県三島町では町指定天然記念物、山梨県では県指定文化財、また鳥取市周辺の生息地は国指定天然記念物。

科名 シジミチョウ科 埼玉県(2018) EX 環境省(2015) EN

和名 クロシジミ

学名 *Niphanda fusca* (Bremer et Grey) 指定状況 -

【形態】 前翅長 16～22mm、開長 35～42mm の小型種。シジミチョウとしては大型の種。

【国内分布】 本州、四国、九州

【主な生息環境】 アブラムシが寄生したクヌギやコナラなどのブナ科植物に産卵することが多く、また一部の地域ではキジラミの寄生したアキグミに産卵する場合もあり、成虫もこのような環境に生息し、ヒメジョオンなど吸蜜植物が存在する環境を好む。

【県内での生息状況】 1960年代までは平野部から低山帯にかけて多くの産地があり、大宮台地や狭山丘陵、奥武蔵では多産した。1970年代から県内全域で減少し、1980年代には狭山丘陵の一部を除いてほとんどの地域で絶滅した。1990年代には狭山丘陵の産地でも絶滅し、現在は県内全域で絶滅したと考えられる。

【特記事項】 近県ランク 東京・神奈川：絶滅（EX）、千葉：絶滅生物 X、群馬：絶滅危惧Ⅰ類（CR+EN）、茨城・栃木：絶滅危惧ⅠA（CR）、長野・山梨：絶滅危惧ⅠB（EN）。

科名	シジミチョウ科	埼玉県(2018)	EX	環境省(2015)	EN
和名	シルビアシジミ				
学名	<i>Zizina otis emelina</i> (de l'Orza)	指定状況	-		
【形態】	前翅長 10～14mm、開長 20～28mm の小型種。				
【国内分布】	本州、四国、九州、南西諸島 南西諸島ものは別亜種とされる				
【主な生息環境】	ミヤコグサの生える草原。河川敷や海岸近くの草むらなどの環境を好む。				
【県内での生息状況】	かつては荒川、利根川の本流や支流など河川流域沿岸に産地が多かったが、1960年代以降に食草であるミヤコグサが激減し、県内では絶滅した。最後の生息地は本庄市仁手であったが、その個体群も 1980 年代に絶滅した。				
【特記事項】	近県ランク 東京：絶滅 (EX)、群馬・神奈川：絶滅危惧 I 類 (CR+EN)、山梨・栃木：絶滅危惧 I B (EN)、千葉：重要保護生物、長野：留意種。				

科名	シジミチョウ科	埼玉県(2018)	EX	環境省(2015)	EN
和名	アサマシジミ				
学名	<i>Lycaeides subsolanus yaginus</i> (Strand)	指定状況	-		
【形態】	前翅長 12～17mm、開長 29～35mm の小型種。				
【国内分布】	北海道、本州 北海道産亜種、本州中部低山帯亜種、本州中部高山帯亜種の 3 亜種に分割される				
【主な生息環境】	ナンテンハギなどマメ科植物の生える火山性の草地。北海道では低地から低山の疎林に生息する。				
【県内での生息状況】	かつては奥武蔵～秩父の乾燥した草原に生息していた。これまでに小川町、旧都幾川村(現ときがわ町)、東秩父村、皆野町、秩父市、小鹿野町で記録がある。しかし、1977年の皆野町蓑山での記録を最後に 40 年以上全く記録がない。現在は県内では絶滅したと思われる。				
【特記事項】	近県ランク 東京・神奈川：絶滅 (EX)、群馬：絶滅危惧 I B (EN)、長野：準絶滅危惧種 (NT)。				

科名	タテハチョウ科	埼玉県(2018)	EX	環境省(2015)	-
和名	ヒヨウモンチョウ				
学名	<i>Brenthis daphne rabdia</i> (Butler)	指定状況	-		
【形態】	前翅長 23～30mm、開長 47～58mm の中型種。北海道産は小型となる。				
【国内分布】	北海道、本州				
【主な生息環境】	オニシモツケやナガボノシロワレモコウなどバラ科植物の生える山地の乾燥した草原。北海道では平地の草原にも産する。				
【県内での生息状況】	これまでに旧大滝村(現秩父市)の奥秩父から数記録が知られている。多くは三国峠周辺の山梨～長野との県境尾根にある山地草原の記録である。1950年代の三国峠での記録を最後に 50 年以上記録が無く、県内では絶滅したと考えられる。				
【特記事項】	近県ランク 群馬：準絶滅危惧種 (NT)、栃木：要注目種。				

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

魚類・円口類

昆虫類

甲殻類

多足類

クモ目

軟体動物

扁形動物

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
魚類・円口類
昆虫類
甲殻類
多足類
クモ目
軟体動物
扁形動物

科名 タテハチョウ科 埼玉県(2018) EX 環境省(2015) CR

和名 **オオウラギンヒョウモン**

学名 *Fabriciana nerippe* (C. et R. Felder) 指定状況 -

【形態】 前翅長 34～43mm、開長 57～78mm の中型種。

【国内分布】 本州、四国、九州

【主な生息環境】 スミレ類の生える低地～山地の乾燥した草地、草原に生息し、成虫は草原や堤防の草地など草花の多い草原によく集まる。

【県内での生息状況】 1950年代には旧浦和市（現さいたま市）、東秩父村、旧大滝村（現秩父市）などに記録があったが、その後全く記録がなく、絶滅したと考えられる。本種は埼玉県に限らず、全国的規模で衰退が著しい。

【特記事項】 現在、九州と山口県を除くほとんどの生息地で絶滅しており、もっとも衰亡の著しい種の1つである。近県ランク 東京・千葉・茨城・栃木・群馬・神奈川：絶滅（EX）、長野・山梨：絶滅危惧 I A（CR）。

科名 タテハチョウ科 埼玉県(2018) EX 環境省(2015) EN

和名 **コヒョウモンモドキ**

学名 *Melitaea britomartis niphona* (Butler) 指定状況 -

【形態】 前翅長 20～25mm、開長 40～50mm の小型種。

【国内分布】 本州 関東、中部地方の特産種。

【主な生息環境】 クガイソウの生える山地の草原。

【県内での生息状況】 これまでに奥秩父と三国峠周辺と中津川上流部での記録があるが、1967年に旧大滝村（現秩父市大滝）で記録されたのを最後に、以降50年近く全く記録が無く、絶滅したと考えられる。

【特記事項】 近県ランク 栃木：絶滅（EX）、群馬・山梨：絶滅危惧 II 類（VU）、長野：準絶滅危惧（NT）。

科名 タテハチョウ科 埼玉県(2018) EX 環境省(2015) VU

和名 **オオイチモンジ**

学名 *Limenitis populi jezoensis* Matsumura 指定状況 -

【形態】 前翅長 40～48mm、開長 68～85mm の大型種。

【国内分布】 北海道、本州

【主な生息環境】 ドロノキ、ヤマナラシなどヤナギ科植物の生える山地の溪流沿いや山間の林に生息。北海道では平地にも生息する。成虫は日当たりの良い山道や開けた湖畔などでよく見られる。

【県内での生息状況】 1930年代に旧大滝村（現秩父市）で2例の記録があった後、1964年に奥秩父主脈稜線の破不山でオス1頭が採集されたが、以降50年以上記録が途絶えており、絶滅したと考えられる。

【特記事項】 近県ランク 栃木：絶滅（EX）、群馬：絶滅危惧 I 類（CR+EN）、長野：準絶滅危惧（NT）、山梨：情報不足（DD）。

科名	タテハチョウ科	埼玉県(2018)	EX	環境省(2015)	NT
和名	キマダラモドキ				
学名	<i>Kirinia epaminondas</i> (Staudinger)	指定状況			-
【形態】	前翅長 28～33mm、開長 56～64mm の中型種。				
【国内分布】	北海道、本州、四国、九州				
【主な生息環境】	ヒカゲスゲなどカヤツリグサ科植物やカモジグサなどイネ科植物の生える低山～山地の林縁の草地に生息するが、成虫はカシワ林やミズナラの林などに見られる。				
【県内での生息状況】	確実な記録は 1950 年と 1954 年の旧大滝村（現秩父市）の三峰山、及び 1973 年の三国峠の 3 例のみである。最後の記録から 40 年以上記録が途絶えており、現在は絶滅したと考えられる。				
【特記事項】	近県ランク 神奈川：絶滅危惧 I A (CR)、群馬・長野：準絶滅危惧 (NT)、山梨：要注目種。				

科名	タテハチョウ科	埼玉県(2018)	EX	環境省(2015)	EN
和名	クロヒカゲモドキ				
学名	<i>Lethe marginalis</i> (Motschulsky)	指定状況			-
【形態】	前翅長 25～30mm、開長 50～62mm の中型種。				
【国内分布】	本州、四国、九州				
【主な生息環境】	ノガリヤスなどイネ科植物やテキリスゲなどカヤツリグサ科植物の生える低山～山地の草地に生息し、成虫は雑木林や林縁でよく見られる。				
【県内での生息状況】	1957 年の旧大滝村（現秩父市）の三峰山の記録が埼玉県唯一の記録であり、これ以降 60 年近く記録が途絶えており、現在は絶滅したと考えられる。				
【特記事項】	近県ランク 群馬：絶滅危惧 I 類 (CR+EN)、栃木・長野：絶滅危惧 II 類 (VU)、山梨：準絶滅危惧種 (NT)。				

科名	セセリチョウ科	埼玉県(2018)	EX	環境省(2015)	EN
和名	ホシチャバネセセリ				
学名	<i>Aeromachus inachus inachus</i> (Menetries)	指定状況			-
【形態】	前翅長 10～14mm、開長 22～28mm の小型種。				
【国内分布】	本州				
【主な生息環境】	オオアブラススキなどイネ科植物の生える山地の疎林や原野に生息。				
【県内での生息状況】	かつては低山帯から山地帯に局地的に生息していたが、各地で著しく減少した。これまでに旧都幾川村（現ときがわ町）、飯能市、小鹿野町で記録されている。最後の記録は 1977 年旧都幾川村（現ときがわ町）の堂平山で、以降 40 年近く記録が無く、現在は絶滅したと考えられる。				
【特記事項】	近県ランク 東京区部：絶滅 (EX)、栃木：絶滅危惧 I 類 (CR+EN)、群馬・神奈川：絶滅危惧 I A (CR)、長野・山梨：絶滅危惧 I B (EN)、茨城：絶滅危惧 II 類 (VU)。				

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

魚類・円口類

昆虫類

甲殻類

多足類

クモ目

軟体動物

扁形動物

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
魚類・円口類
昆虫類
甲殻類
多足類
クモ目
軟体動物
扁形動物

科名	セセリチョウ科	埼玉県(2018)	EX	環境省(2015)	EN
和名	アカセセリ				
学名	<i>Hesperia florinda</i> (Butler)	指定状況	-		
【形態】	前翅長 14 ~ 16mm、開長 28 ~ 36mm の小型種。				
【国内分布】	本州				
【主な生息環境】	ヒカゲスゲなどカヤツリグサ科植物の生える山地の乾燥した草原に生息。成虫は草原の上を飛び回り各種の花を訪れる。				
【県内での生息状況】	これまでに小川町、旧大滝村（現秩父市）、小鹿野町で少数の記録がある。しかし1976年の秩父市の記録を最後に40年近く記録が途絶えていて、再発見される可能性は低く、県内では絶滅したと考えられる。				
【特記事項】	近県ランク 東京区部：絶滅（EX）、栃木・群馬：絶滅危惧Ⅱ類（VU）、長野・山梨：準絶滅危惧（NT）。				

科名	シジミチョウ科	埼玉県(2018)	CR	環境省(2015)	-
和名	ムモンアカシジミ				
学名	<i>Shirozua jonasi</i> (Janson)	指定状況	-		
【形態】	前翅長 18 ~ 22mm、開長 38 ~ 42mm の小型種だがシジミチョウとしては大型の種。				
【国内分布】	北海道、本州				
【主な生息環境】	田畑周辺の二次林や疎林に生息するが、幼虫がクサアリ類と偏利共生関係にあり、発生地はきわめて局地的である。				
【県内での生息状況】	これまでに県内では秩父市と飯能市で記録があるが、現在、確実な産地は秩父市大滝の数ヶ所のみである。奥秩父の各生息地での個体数は非常に少ない。				
【特記事項】	近県ランク 茨城：絶滅危惧ⅠB（EN）、群馬・長野：準絶滅危惧種（NT）、東京・神奈川：情報不足（DD）。				

科名	シジミチョウ科	埼玉県(2018)	CR	環境省(2015)	-
和名	ウラジロミドリシジミ				
学名	<i>Favonius saphirinus</i> (Staudinger)	指定状況	-		
【形態】	前翅長 16 ~ 18mm、開長 30 ~ 38mm の小型種。				
【国内分布】	北海道、本州、四国、九州				
【主な生息環境】	カシワ、ナラガシワなどブナ科植物の混じる雑木林に生息する。				
【県内での生息状況】	これまでに小川町、旧都幾川村（現ときがわ町）、東秩父村で記録されている。かつては奥武蔵のカシワ林に分布していたが、近年全く記録がない。2006年以降、秩父市や皆野町で越冬卵が確認されている。				
【特記事項】	近県ランク 茨城：絶滅危惧Ⅱ類（VU）、栃木・群馬・長野：準絶滅危惧種（NT）。				

科名	シジミチョウ科	埼玉県(2018)	CR	環境省(2015)	-
和名	ジョウザンミドリシジミ				
学名	<i>Favonius aurorinus</i> (Oberthur)	指定状況			-
【形態】	前翅長 17～21mm、開長 30～40mm の小型種だがシジミチョウとしては大型の種。北海道産は小型。				
【国内分布】	北海道、本州				
【主な生息環境】	ミズナラの混じる東北、関東、中部地方の山地の雑木林に生息し、群生することが多い。北海道では平地にも産する。近畿以西では稀。				
【県内での生息状況】	奥秩父の山地帯のミズナラの混じる雑木林に生息する。過去の確実な記録は旧大滝村(現秩父市)の入波沢だけだったが、2013年に同山域で採集されたオス個体が精査の結果、本種であることが明らかとなった。				
【特記事項】	近県ランク 東京：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)、茨城：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)、神奈川：不明種。				

科名	シジミチョウ科	埼玉県(2018)	CR	環境省(2015)	-
和名	ミヤマカラスシジミ				
学名	<i>Strymonidia mera</i> (Janson)	指定状況			-
【形態】	前翅長 14～19mm、開長 30～38mm の小型種。				
【国内分布】	北海道、本州、四国、九州				
【主な生息環境】	クロウメモドキ、クロツバラなどクロウメモドキ科植物の生える疎林や林縁。成虫は明るい草原にも姿を見せる。				
【県内での生息状況】	これまでに横瀬町と秩父市で記録されている。県内の記録は武甲山周辺に集中していたが武甲山の生息地は石灰岩の採掘のためほとんど消失し絶滅状態。現在は秩父市大滝にわずかに産地がある。				
【特記事項】	近県ランク 茨城：絶滅危惧ⅠB (EN)、栃木：準絶滅危惧種 (NT)。				

科名	シジミチョウ科	埼玉県(2018)	CR	環境省(2015)	NT
和名	ヒメシジミ				
学名	<i>Plebejus argus micrargus</i> (Butler)	指定状況			-
【形態】	前翅長 12～16mm、開長 26～32mm の小型種。				
【国内分布】	北海道、本州、九州				
【主な生息環境】	アザミ類やヒメジョオンなどの生える山地の草原。成虫は花の多い草原に多い。ただし北海道と北日本では低地～山地にかけても生息する。				
【県内での生息状況】	これまでに秩父市大滝と寄居町に記録があるが、寄居町の記録には疑問があり、確実な産地は秩父市大滝の奥秩父山地のみ。最近の記録は1982年に1例、2006年に1例、さらに2015年に2例であり、生息地数、生息地での個体数はいずれも非常に少ないと思われる。				
【特記事項】	近県ランク 東京・神奈川：絶滅 (EX)、茨城：絶滅危惧ⅠB (EN)、群馬：準絶滅危惧種 (NT)。栃木：要注目種、長野：留意種。				

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

魚類・円口類

昆虫類

甲殻類

多足類

クモ目

軟体動物

扁形動物

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
魚類・円口類
昆虫類
甲殻類
多足類
クモ目
軟体動物
扁形動物

科名	シジミチョウ科	埼玉県(2018)	CR	環境省(2015)	EN
和名	ミヤマシジミ				
学名	<i>Lycaeides argyrognomon praeterinsularis</i> (Verity)	指定状況	-		
【形態】	前翅長 12～16mm、開長 26～33mm の小型種。				
【国内分布】	本州				
【主な生息環境】	コマツナギなどマメ科植物の生える河川敷や河川沿いの後背地や堤防、河岸段丘上の田畑、また火山性草原などに生息する。				
【県内での生息状況】	かつては荒川や利根川の上流域から中流域にかけて、多くの産地があった。しかし1960年代から急激に減少し始めた。2000年ごろまでは熊谷市、上里町、本庄市に産地があったが、近年は詳しい調査にもかかわらず全く生息情報が無く、確実な産地は1つもない。				
【特記事項】	近県ランク 東京・神奈川：絶滅 (EX)、群馬：絶滅危惧 I B (EN)、山梨：絶滅危惧 II 類 (VU)、栃木：準絶滅危惧種 (NT)。				

科名	タテハチョウ科	埼玉県(2018)	CR	環境省(2015)	-
和名	フタスジチョウ				
学名	<i>Neptis rivularis insularum</i> Fruhstorfer	指定状況	-		
【形態】	前翅長 22～27mm、開長 42～52mm の中型種。				
【国内分布】	北海道、本州				
【主な生息環境】	シモツケ、イワシモツケ、コデマリなどバラ科植物の生える山地の草原に生息。北海道では平地にも分布する。				
【県内での生息状況】	これまでに旧大滝村（現秩父市）でのみ記録されており、生息地は標高 2,000 m 前後の長野、山梨県境奥秩父主脈稜線に点在する草原と考えられる。しかし近年は生息地でも生息数が著しく減少している。				
【特記事項】	近県ランク 群馬：準絶滅危惧 (NT)、栃木：要注目種。				

科名	シロチョウ科	埼玉県(2018)	EN	環境省(2015)	EN
和名	ツマグロキチョウ				
学名	<i>Eurema laeta betheseba</i> (Janson)	指定状況	-		
【形態】	前翅長 18～23mm、開長 30～40mm の小型種、秋型に比べ夏型は小型。				
【国内分布】	本州、四国、九州				
【主な生息環境】	カワラケツメイの生える河川敷や草地。				
【県内での生息状況】	1976年以前の調査では局地的ではあっても県内各地に生息していたが、近年県内の各地で顕著に衰退し、前版では絶滅 (EX) にランクされた。しかし2010年以降、嵐山町で本種の生息が相次いで再確認された。個体数はきわめて少ないと思われる。				
【特記事項】	近年になって既知の食草のカワラケツメイではなく、帰化植物のアレチカワラケツメイも食べて生育することが判明した。アレチカワラケツメイは東海3県（静岡県、愛知県、岐阜県）等で分布を広げており本種が増加しているという報告がある。近県ランク 東京・千葉・神奈川：絶滅 (EX)、長野・群馬：CR、茨城・山梨：EN。				

科名	シロチョウ科	埼玉県(2018)	VU	環境省(2015)	-
和名	スジボソヤマキチョウ				
学名	<i>Gonepteryx aspasia niponica</i> Bollow	指定状況			-
【形態】	前翅長 26～34mm、開長 55～60mm の中型種だがシロチョウとしてはやや大型の種。				
【国内分布】	本州、四国、九州				
【主な生息環境】	クロウメドキ、クロツバラなどクロウメドキ科植物の生える山地の草原に多いが、近縁種ヤマキチョウに比べるとやや暗い環境にも見られ、樹林縁や渓谷沿いの登山路などでも見られる。				
【県内での生息状況】	奥武蔵高原の山地帯から西側の奥秩父地方にかけて分布。最近まで奥秩父では普通に見られたが近年急激に減少している。				
【特記事項】	近県ランク 茨城：絶滅危惧 I B 類 (EN)、神奈川：準絶滅危惧種 (NT)。				

科名	シジミチョウ科	埼玉県(2018)	VU	環境省(2015)	-
和名	ウラゴマダラシジミ				
学名	<i>Artopoetes pryeri</i> (Murray)	指定状況			-
【形態】	前翅長 16～24mm、開長 38～45mm の中型種だが、シジミチョウとしては大型の種。北海道産は小型。				
【国内分布】	北海道、本州、四国、九州				
【主な生息環境】	イボタ、ミヤマイボタなど食樹の混じる雑木林に生息し、林縁の溪流沿いに多い。				
【県内での生息状況】	県内ではかつては低地と台地の境界から低山帯に広く分布していたが、現在は大宮台地で絶滅した。丘陵では現在でも局地的に生息しているが、県内全体では減少傾向が著しい。山地ではやや普通に見られる。				
【特記事項】	近県ランク 栃木・茨城：準絶滅危惧種 (NT)、千葉：一般保護生物、東京：情報不足 (DD)。				

科名	シジミチョウ科	埼玉県(2018)	VU	環境省(2015)	-
和名	ウスイロオナガシジミ				
学名	<i>Antigius butleri</i> (Fenton)	指定状況			-
【形態】	前翅長 15～20mm、開長 30～35mm の小型種。				
【国内分布】	北海道、本州、九州				
【主な生息環境】	カシワ、ミズナラ、コナラなどブナ科植物の混じる雑木林に生息する。				
【県内での生息状況】	これまでに小川町、旧都幾川村（現ときがわ町）、東秩父村、横瀬町、秩父市（旧秩父市、旧吉田町、旧大滝村を含む）、小鹿野町で記録されている。食樹はカシワとミズナラで、カシワを食樹とする外秩父の低山帯では局所的に分布するがミズナラを食樹とする奥秩父の山地帯での分布は広く薄い。外秩父ではカシワが減少傾向にあるので生息が危ぶまれる。				
【特記事項】	近県ランク 東京西多摩：絶滅危惧 I 類 (CR + EN)、神奈川：絶滅危惧 II 類 (VU)、茨城：準絶滅危惧種 (NT)、群馬：情報不足 (DD)、栃木：要注目種。				

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

魚類・円口類

昆虫類

甲殻類

多足類

クモ目

軟体動物

扁形動物

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
魚類・円口類
昆虫類
甲殻類
多足類
クモ目
軟体動物
扁形動物

科名	シジミチョウ科	埼玉県(2018)	VU	環境省(2015)	-
和名	ウラミスジシジミ				
学名	<i>Wagimo signatus</i> (Butler)	指定状況	-		
【形態】	前翅長 16～19mm、開長 30～35mm の小型種。				
【国内分布】	北海道、本州、四国、九州				
【主な生息環境】	コナラ、ミズナラ、ウラジログシ、カシワなどブナ科植物の混じる雑木林に生息する。				
【県内での生息状況】	これまでに小鹿野町と秩父市で記録されている。現在は秩父地方に数ヶ所の生息地がある。県内での主な食樹はコナラであり、コナラの林で発生する。				
【特記事項】	近県ランク 東京西多摩：絶滅危惧 I A (CR)、神奈川：希少種、栃木：要注目種。				

科名	シジミチョウ科	埼玉県(2018)	VU	環境省(2015)	-
和名	クロミドリシジミ				
学名	<i>Favonius yuasai</i> Shirozu	指定状況	-		
【形態】	前翅長 18～22mm、開長 35～42mm の小型種だがシジミチョウとしては大型の種。				
【国内分布】	本州、九州				
【主な生息環境】	クヌギの大木の混じる平地～山地の雑木林に生息する。				
【県内での生息状況】	埼玉県では 2003 年に初めて生息が確認され、当初は数が少ないとされ前版では EN にランクされたが、その後相次いで産地が発見されたため、ランクを VU に変更した。現在は秩父地方の秩父市と小鹿野町を中心として 25 カ所以上の産地が確認されているが、それぞれの産地での個体数は多くはない。				
【特記事項】	近県ランク 群馬・長野・茨城：準絶滅危惧種 (NT)、栃木：要注目種。				

科名	シジミチョウ科	埼玉県(2018)	VU	環境省(2015)	-
和名	ハヤシミドリシジミ				
学名	<i>Favonius ultramarinus</i> (Fixsen)	指定状況	-		
【形態】	前翅長 19～22mm、開長 35～42mm の小型種だがシジミチョウとしては大型の種。北海道産は小型。				
【国内分布】	北海道、本州、九州				
【主な生息環境】	カシワの混じる低山～山地の雑木林に生息する。北海道では平地にも産する。				
【県内での生息状況】	これまでに小川町、寄居町、旧都幾川村（現ときがわ町）、東秩父村、皆野町、横瀬町、秩父市で記録されている。しかし 2000 年以降は成虫確認の報告がない。一方、越冬卵調査では 2006 年に秩父市、横瀬町など数ヶ所で記録がある。				
【特記事項】	近県ランク 茨城：絶滅危惧 I B (CR)、東京多摩地方・栃木・群馬・神奈川：絶滅危惧 II 類 (VU)。				

科名	シジミチョウ科	埼玉県(2018)	VU	環境省(2015)	-
和名	カラスシジミ				
学名	<i>Strymonidia w-album fentoni</i> (Butler)	指定状況			-
【形態】	前翅長 13～17mm、開長 25～34mm の小型種。北海道産はより小型となる。				
【国内分布】	北海道、本州、四国、九州				
【主な生息環境】	本州、四国、九州ではハルニレの生える丘陵～山地の沢筋から林縁に生息し、成虫は林縁の花などで多く見られる。北海道では平地から山地に分布する。				
【県内での生息状況】	丘陵から低山帯にかけてハルニレの分布に沿って局地的に生息している。秩父市、小鹿野町、長瀨町、寄居町などの秩父地方や飯能市など産地が点在する。				
【特記事項】	近県ランク 茨城：絶滅危惧 I A (CR)、東京・栃木・山梨：準絶滅危惧種 (NT)、神奈川：希少種。				

科名	シジミチョウ科	埼玉県(2018)	VU	環境省(2015)	NT
和名	クロツバメシジミ				
学名	<i>Tongeia fischeri</i> (Eversmann)	指定状況			-
【形態】	前翅長 11～13mm、開長 20～25mm の小型種。				
【国内分布】	本州、九州 ただし分布域は東日本域、西日本域、九州域の3地域に分離し、それぞれ亜種である。				
【主な生息環境】	ツメレンゲなどベンケイソウ科植物の生える砂礫地、河川敷、草地、崖などに生息。				
【県内での生息状況】	秩父地方を中心とした低山帯から奥秩父の標高1,000mを越す山地帯まで広く分布する。しかしどの生息地でも個体数、食草ともに少なく、安定した発生を繰り返している場所は少ない。				
【特記事項】	近県ランク 神奈川：絶滅危惧 I 類 (CR+EN)、群馬：準絶滅危惧種 (NT)、長野：留意種。				

科名	タテハチョウ科	埼玉県(2018)	VU	環境省(2015)	VU
和名	ウラギンスジヒョウモン				
学名	<i>Argyronome laodice japonica</i> (Menetries)	指定状況			-
【形態】	前翅長 26～38mm、開長 55～70mm の中型種。寒冷地産は小型となる傾向。				
【国内分布】	北海道、本州、四国、九州				
【主な生息環境】	タチツボスミレ、ツボスミレなどスミレ類の生える平地～山地の草原。成虫はアザミ類などの花の多い草原でよく見られる。				
【県内での生息状況】	かつては低地や大宮台地でも記録があった。近年は平野部での記録は稀で、丘陵部でも生息地の減少が著しく、前版の NT2 から VU にランクを変更した。現在では低山地帯を中心に丘陵部から秩父地方にかけて産地があり、疎林、林縁、河川林周辺の草地に生息する。				
【特記事項】	近県ランク 東京：絶滅 (EX)、千葉：絶滅生物 (X)、神奈川：絶滅危惧 I B (EN)、茨城：絶滅危惧 II 類 (VU)、栃木：準絶滅危惧種 (NT)。				

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

魚類・円口類

昆虫類

甲殻類

多足類

クモ目

軟体動物

扁形動物

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
魚類・円口類
昆虫類
甲殻類
多足類
クモ目
軟体動物
扁形動物

科名 タテハチョウ科 埼玉県(2018) VU 環境省(2015) -

和名 **ヒオドシチョウ**

学名 *Nymphalis xanthomelas japonica* (Stichel) 指定状況 -

【形態】 前翅長 32～36mm、開長 58～72mm の中型種。

【国内分布】 北海道、本州、四国、九州

【主な生息環境】 エノキやハルニレなどニレ科植物の混じる平地～山地の雑木林の周辺。成虫は樹液にも集まる。

【県内での生息状況】 県内に広く分布するが、近年は平野部では観察例が減少している。しかし年による個体数の変動が大きい。山間部では夏季と春に成虫が観察されている。

【特記事項】 近県ランク 千葉：最重要保護生物、東京区部及び北多摩：情報不足 (DD)。

科名 タテハチョウ科 埼玉県(2018) VU 環境省(2015) NT

和名 **オオムラサキ**

学名 *Sasakia charonda charonda* (Hewitson) 指定状況 -

【形態】 前翅長 45～60mm、開長 78～106mm の大型種。

【国内分布】 北海道、本州、四国、九州

【主な生息環境】 エノキ、エゾエノキなどの混じる平地～低山の雑木林に生息。西南日本では主に山地に生息。成虫は樹液に集まる。

【県内での生息状況】 かつては県内に広く分布していたが、東部低地の記録は少ない。大宮台地では旧浦和市(現さいたま市)の秋ヶ瀬公園が産地として有名であったが、1980年代にこの場所の個体群は絶滅したと考えられる。現在は比企丘陵から奥秩父の山地帯に広く分布しているが、丘陵地では個体数が少なくなっている。

【特記事項】 近県ランク 東京区部：絶滅 (EX)、千葉：最重要保護生物、群馬・神奈川：準絶滅危惧 (NT)。茨城：希少種、栃木：要注目種、長野：留意種、山梨：要注目種。

科名 セセリチョウ科 埼玉県(2018) VU 環境省(2015) NT

和名 **スジグロチャバネセセリ**

学名 *Thymelicus leoninus leoninus* (Butler) 指定状況 -

【形態】 前翅長 13～16mm、開長 25～30mm の小型種。

【国内分布】 北海道、本州、四国、九州

【主な生息環境】 カモジグサ、ヒメノガリヤスなどイネ科植物の生える低山～山地の疎林や林縁付近の草原。成虫は訪花し、小高いピークなどに集まる。

【県内での生息状況】 低山帯上部から秩父地方の山地帯にかけて分布しているが、産地は局地的である。これまでに日高市、鳩山町、小川町、皆野町、秩父市、小鹿野町で記録されている。1980年代までは比企丘陵でも記録が多かったが、1990年代以降は低山帯では絶滅し、現在は秩父地方にのみ産地がある。

【特記事項】 近県ランク 神奈川：絶滅危惧 1A (CR)、長野：絶滅危惧 I B (EN)、群馬・山梨：準絶滅危惧 (NT)、栃木：要注目種。

科名	セセリチョウ科	埼玉県(2018)	VU	環境省(2015)	-
和名	コキマダラセセリ				
学名	<i>Ochlodes venatus venatus</i> (Bremer et Grey)	指定状況			-
【形態】	前翅長 15～18mm、開長 32～38mm の小型種。				
【国内分布】	北海道、本州				
【主な生息環境】	ススキ、アブラススキ、ヒメノガリヤスなどイネ科植物の生える山地の草地や草原に生息し、成虫はよく花を訪れる。				
【県内での生息状況】	低山帯上部から山地帯にかけて分布しているが、産地は極限されている。これまでに小川町、飯能市、横瀬町、秩父市、小鹿野町で記録されている。しかし近年、記録が少なく、生息が危機的状況になっている。				
【特記事項】	近県ランク 東京南多摩：絶滅 (EX)、神奈川：絶滅危惧 I B (EN)、茨城：絶滅危惧 II 類 (VU)、東京区部：情報不足 (DD)。				

科名	シジミチョウ科	埼玉県(2018)	NT1	環境省(2015)	-
和名	オナガシジミ				
学名	<i>Araragi enthea enthea</i> (Janson)	指定状況			-
【形態】	前翅長 15～18mm、開長 30～35mm の小型種。				
【国内分布】	北海道、本州、四国、九州				
【主な生息環境】	山地のオニグルミの混じる雑木林に生息する。				
【県内での生息状況】	低山帯から山地帯にかけての沢沿いにあるオニグルミを食樹として普遍的に生息している。堂平山、伊豆ヶ岳、浦山溪谷、城峰山、志賀坂峠、双子山、三峰山、二瀬ダムなどに記録がある。				
【特記事項】	近県ランク 栃木・茨城：準絶滅危惧種 (NT)、神奈川：希少種。				

科名	シジミチョウ科	埼玉県(2018)	NT1	環境省(2015)	-
和名	ミドリシジミ				
学名	<i>Neozephyrus japonicus</i> (Murray)	指定状況			-
【形態】	前翅長 16～22mm、開長 30～40mm の小型種だがシジミチョウとしては大型。北海道産は小型。				
【国内分布】	北海道、本州、四国、九州				
【主な生息環境】	ハンノキ、ヤマハンノキなどカバノキ科植物の混じる平地～山地の雑木林に生息する。				
【県内での生息状況】	利根川、荒川の氾濫原を中心に広がるハンノキ群落に生息し、かつては東部の低地各所で多産した。しかし近年の宅地開発などにより湿地が減少し、ハンノキ群落が狭小化し、生息地が消滅している。また秩父地方など山地にも分布するが、ヤマハンノキ類からの発生個体数は少ない。				
【特記事項】	埼玉県の「県のチョウ」に指定されている。近県ランク 千葉：要保護生物、神奈川：準絶滅危惧種 (NT)、東京：情報不足 (DD)、栃木：要注目種。				

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

魚類・円口類

昆虫類

甲殻類

多足類

クモ目

軟体動物

扁形動物

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
魚類・円口類
昆虫類
甲殻類
多足類
クモ目
軟体動物
扁形動物

科名 シジミチョウ科 埼玉県(2018) NT1 環境省(2015) -

和名 **アイノミドリシジミ**

学名 *Chrysozephyrus brilliantinus* (Staudinger) 指定状況 -

【形態】 前翅長 18～22mm、開長 35～40mm の小型種だがシジミチョウとしては大型。寒冷地産のものは小型。

【国内分布】 北海道、本州、四国、九州

【主な生息環境】 ミズナラ、コナラ、カシワなどブナ科植物の混じる低山～山地の雑木林に生息する。

【県内での生息状況】 これまでに秩父市と小鹿野町で記録されている。現在は秩父市大滝を中心とした標高 700～1,800m の谷筋に産地がある。

【特記事項】 近県ランク 東京：絶滅危惧 I A (CR)、茨城・群馬：準絶滅危惧種 (NT)。

科名 シジミチョウ科 埼玉県(2018) NT1 環境省(2015) -

和名 **オオミドリシジミ**

学名 *Favonius orientalis* (Murray) 指定状況 -

【形態】 前翅長 19～22mm、開長 35～42mm の小型種だがシジミチョウとしては大型の種。

【国内分布】 北海道、本州、四国、九州

【主な生息環境】 コナラ、カシワ、ミズナラ、クヌギなどブナ科植物の混じる平地から山地の雑木林に生息する。

【県内での生息状況】 低地から海拔 1,000m 前後の山地帯に広く分布するが、どの産地でも個体数は多くない。沖積低地には生息しないが、かつては大宮台地でも散見された。現在では、狭山丘陵以西の丘陵地～山地で見られる。

【特記事項】 近県ランク 千葉：要保護生物、栃木：準絶滅危惧種 (NT)、東京：情報不足 (DD)。

科名 シジミチョウ科 埼玉県(2018) NT1 環境省(2015) -

和名 **フジミドリシジミ**

学名 *Sibatanozephyrus fujisanus* (Matsumura) 指定状況 -

【形態】 前翅長 15～18mm、開長 28～34mm の小型種。

【国内分布】 北海道、本州、四国、九州 日本固有種

【主な生息環境】 ブナ、イヌブナの混じる山地の雑木林に生息する。

【県内での生息状況】 これまでに飯能市、横瀬町、秩父市、小鹿野町で記録されている。奥武蔵の低山地と奥秩父の山地帯に産地があり、標高 700m 以上のイヌブナ、ブナ林に生息する。

【特記事項】 近県ランク 栃木：絶滅危惧 II 類 (VU)、茨城：準絶滅危惧種 (NT)。

科名	タテハチョウ科	埼玉県(2018)	NT1	環境省(2015)	-
和名	ギンボシヒョウモン				
学名	<i>Speyeria aglaja fortuna</i> (Janson)	指定状況			-
【形態】	前翅長 27 ~ 34mm、開長 52 ~ 65mm の中型種 北海道産は小型となる。				
【国内分布】	北海道、本州				
【主な生息環境】	イブキトラノオなどのタデ科植物やタチツボスミレなどのスミレ科植物などの生える山地の草原。北海道では平地の草原にも分布する。				
【県内での生息状況】	奥秩父主脈稜線の亜高山帯の草原に生息。成虫は山地の花畑などで見られるが、近年は産地での生息数が減少しており、本書から新たに掲載種となった。				
【特記事項】	近県ランク 栃木：要注目種。				

科名	タテハチョウ科	埼玉県(2018)	NT1	環境省(2015)	-
和名	オオミスジ				
学名	<i>Neptis alwina</i> (Bremer et Grey)	指定状況			-
【形態】	前翅長 34 ~ 52mm、開長 64 ~ 75mm の中型種。				
【国内分布】	北海道、本州				
【主な生息環境】	ウメなどバラ科植物の生える低地～山地の明るい草原や開けた溪流沿いの草地、樹林縁などに生息する。				
【県内での生息状況】	飯能市、小川町など丘陵帯から秩父地方の山地にかけて記録があるが、産地は局地的で丘陵部では絶滅した。現在は秩父地方の山地を中心に産地がある。しかし山間部でも生息環境の悪化のため生息地数、生息数が減少したため、本書から新たに掲載種となった。				
【特記事項】	近県ランク 東京区部及び南北多摩：絶滅 (EX)、神奈川：絶滅危惧 I A (CR)、群馬：準絶滅危惧 (NT)。				

科名	タテハチョウ科	埼玉県(2018)	NT1	環境省(2015)	-
和名	ホシミスジ				
学名	<i>Neptis pryri pryri</i> Butler	指定状況			-
【形態】	前翅長 26 ~ 32mm、開長 48 ~ 60mm の中型種。				
【国内分布】	北海道、本州、九州				
【主な生息環境】	シモツケ、イワシモツケ、ユキヤナギなどの生える明るい草原や開けた溪流沿いなどに生息する。東北、関東、中部では山地に多く、近畿以西では平地でも見られる。				
【県内での生息状況】	低山帯から山地帯にかけて分布する。奥秩父ではやや普通に見られる。平野部には分布しないと考えられるが、最近になって平野部で本種の確認が相次いでいる。これらの記録は関西低地型タイプと呼ばれる系統の可能性が高い。				
【特記事項】	最近、平野部で確認される記録は関西低地型タイプの可能性が高い。低山部での交雑が懸念される。近県ランク 神奈川：絶滅危惧 I B (EN)、東京南多摩：絶滅危惧 II 類 (VU)、栃木：準絶滅危惧 (NT)、東京北多摩：情報不足 (DD)。				

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

魚類・円口類

昆虫類

甲殻類

多足類

クモ目

軟体動物

扁形動物

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
魚類・円口類
昆虫類
甲殻類
多足類
クモ目
軟体動物
扁形動物

科名 タテハチョウ科
埼玉県(2018) NT1 環境省(2015) -

和名 **ツマジロウラジャノメ**

学名 *Lasiommata deidamia interrupta* (Fruhstorfer) 指定状況 -

【形態】 前翅長 22～30mm、開長 44～58mm の中型種。

【国内分布】 北海道、本州、四国

【主な生息環境】 ノガリヤスなどイネ科植物の生える低山～山地の崖地や岩場に生息する。成虫は崖地、山道、沢沿いの斜面などでよく見られる。

【県内での生息状況】 県西部の山地帯のみに分布し、これまでに飯能市名栗、横瀬町、秩父市、小鹿野町で記録されているが、産地は局地的である。近年はかつての多産地でも減少している。

【特記事項】 近県ランク 群馬：準絶滅危惧種 (NT)。栃木：要注目種、神奈川：要注意種。

科名 セセリチョウ科
埼玉県(2018) NT1 環境省(2015) -

和名 **ミヤマセセリ**

学名 *Erynnis montanus* (Bremer) 指定状況 -

【形態】 前翅長 17～19mm、開長 33～40mm の小型種。

【国内分布】 北海道、本州、四国、九州

【主な生息環境】 コナラ、クヌギ、ミズナラなどの生える平地～山地の樹林の林内や樹林縁の草地に生息する。

【県内での生息状況】 かつては県東部の平野部を含め全県に分布していたが、低地や大宮台地では絶滅し、現在は平野部では見られず、丘陵や低山帯～山地帯にやや普通に生息している。

【特記事項】 近県ランク 東京区部：絶滅 (EX)、千葉：重要保護生物、東京北多摩：留意種。

科名 セセリチョウ科
埼玉県(2018) NT1 環境省(2015) -

和名 **ヘリグロチャバネセセリ**

学名 *Thymelicus sylvaticus sylvaticus* (Bremer) 指定状況 -

【形態】 前翅長 13～16mm、開長 25～30mm の小型種。

【国内分布】 北海道、本州、四国、九州

【主な生息環境】 カモジグサ、ヒメノガリヤスなどイネ科植物やテキリスゲなどカヤツリグサ科植物の生える樹林と草原の入り混じった低山～山地の明るい草地に生息。

【県内での生息状況】 低山帯上部から山地帯にかけて分布しているが、産地は局地的である。かつては武甲山や三峰山周辺では普通に見られたが、現在は秩父地方の山地にのみ産地がある。これまでに小川町、飯能市、ときがわ町、皆野町、長瀬町、横瀬町、秩父市、小鹿野町で記録がある。

【特記事項】 近県ランク 神奈川：絶滅危惧 I B (EN)。

科名	シジミチョウ科	埼玉県(2018)	NT2	環境省(2015)	-
和名	ゴイシシジミ				
学名	<i>Taraka hamada hamada</i> (H. Druce)	指定状況	-		
【形態】	前翅長 12～14mm、開長 20～25mm の小型種。山地産は平地のものより大型になる傾向がある。				
【国内分布】	北海道、本州、四国、九州				
【主な生息環境】	タケ、ササ類の多い雑木林の林内や林縁。				
【県内での生息状況】	低地から低山帯にかけて分布。県内では幼虫が主にアズマネザサにつくササコナフキツノアブラムシを食餌としているため低地の方が産地が多い。近年、その低地で産地数の減少と生息数の減少が著しく、本書から新たに掲載種となった。				
【特記事項】	近県ランク 東京で「かつては区部でも普通に見られたが、最近は大田区地方においても分布が分断している」ため DD (情報不足) とされている。				

科名	シジミチョウ科	埼玉県(2018)	NT2	環境省(2015)	-
和名	ウラキンシジミ				
学名	<i>Ussuriana stygiana</i> (Butler)	指定状況	-		
【形態】	前翅長 15～21mm、開長 28～40mm の小型種。				
【国内分布】	北海道、本州、四国、九州 日本固有種				
【主な生息環境】	トネリコ、アオダモなど食樹の混じる雑木林に生息し、溪流沿いに多い。一部の地域で低山にも見られるが、多くは山地の林縁に生息する。				
【県内での生息状況】	県内では奥秩父山地から奥武蔵の低山帯に分布。奥秩父では溪流沿い、谷筋のシオジに多く生息し、中津川林道、入川林道、また低山帯の秩父市、小鹿野町、皆野町などに産地がある。ただし産地は局地的である。				
【特記事項】	近県ランク 千葉：最重要保護生物 A、茨城：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)。				

科名	シジミチョウ科	埼玉県(2018)	NT2	環境省(2015)	-
和名	ウラクロシジミ				
学名	<i>Iratsume orsedice orsedice</i> (Butler)	指定状況	-		
【形態】	前翅長 15～18mm、開長 30～35mm の小型種。暖地産のものは寒冷地産より大型になる傾向がある。				
【国内分布】	北海道、本州、四国、九州				
【主な生息環境】	マンサク、マルバマンサクなどマンサク科植物の混じる雑木林に生息する。溪流沿いを好んで飛翔する。				
【県内での生息状況】	低山帯から山地にかけて分布している。現在も標高 100m 付近の低山地溪谷でも生息は健在である。				
【特記事項】	近県ランク 茨城：準絶滅危惧種 (NT)、神奈川：希少種。				

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

魚類・円口類

昆虫類

甲殻類

多足類

クモ目

軟体動物

扁形動物

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
魚類・円口類
昆虫類
甲殻類
多足類
クモ目
軟体動物
扁形動物

科名	シジミチョウ科	埼玉県(2018)	NT2	環境省(2015)	-
和名	コツバメ				
学名	<i>Callophrys ferrea</i> (Butler)	指定状況	-		
【形態】	前翅長 13～15mm、開長 23～29mm の小型種。				
【国内分布】	北海道、本州、四国、九州				
【主な生息環境】	台地や丘陵、低山の溪流沿いのツツジ科植物やウワミズザクラやスモモ、アンズなどバラ科植物の混じる疎林や、明るい林道沿いなどに生息する。				
【県内での生息状況】	かつては平野部の台地から奥秩父の山地帯にかけて広く分布していたが、大宮台地では絶滅した。丘陵から山地にかけては、局地的であるが普遍的に生息している。				
【特記事項】	近県ランク 東京都区部：絶滅 (EX)、千葉：重要保護生物、東京都西多摩：情報不足 (DD)。				

科名	タテハチョウ科	埼玉県(2018)	NT2	環境省(2015)	-
和名	オオウラギンスジヒョウモン				
学名	<i>Argyronome rulsana lysippe</i> (Janson)	指定状況	-		
【形態】	前翅長 26～42mm、開長 60～76mm の中型種。 暖地産は大型、寒冷地産は小型となる傾向。				
【国内分布】	北海道、本州、四国、九州				
【主な生息環境】	スミレ類の生える草地や溪流沿い、林縁などに生息し、成虫はアザミ類など花の多い場所によく見られる。				
【県内での生息状況】	東部の低地から秩父地方まで広い地域で記録されており、最近、一時的に東部低地での記録が増えた。しかし全体的には各生息地で個体数の減少が著しく、本書から新たに掲載種となった。				
【特記事項】	近県ランク 千葉：最重要保護生物、神奈川：準絶滅危惧 (NT)、東京区部：情報不足 (DD)。				

科名	タテハチョウ科	埼玉県(2018)	NT2	環境省(2015)	-
和名	クモガタヒョウモン				
学名	<i>Nephargynnis anadyomene midas</i> (Butler)	指定状況	-		
【形態】	前翅長 32～40mm、開長 62～75mm の中型種。 暖地産は大型、寒冷地産は小型となる。				
【国内分布】	北海道、本州、四国、九州				
【主な生息環境】	スミレ類の生える低地～山地の草地や溪流沿い、樹林沿いの草地などに生息する。成虫はアザミ類やヒヨドリバナなど花の多い場所によく見られる。				
【県内での生息状況】	低山帯を中心に分布する種で、低地での記録は少ない。大宮台地でも絶滅したと考えられる。丘陵部から低山帯には産地がある。もともと個体数は多くはないが、林縁の草地の草刈がなされなくなって環境が変化したことが減少の一つの要因と考えられる。				
【特記事項】	近県ランク 東京区部：絶滅 (EX)、千葉：最重要保護生物、神奈川：絶滅危惧 I B (EN)、東京南多摩：情報不足 (DD)。				

科名	タテハチョウ科	埼玉県(2018)	NT2	環境省(2015)	-
和名	メスグロヒョウモン				
学名	<i>Damora sagana ilone</i> (Fruhstorfer)	指定状況			-
【形態】	前翅長 28 ~ 40mm、開長 62 ~ 75mm の中型種。				
【国内分布】	北海道、本州、四国、九州				
【主な生息環境】	タチツボスミレ、ツボスミレなどスミレ類の生える低地～山地の草地や溪流沿い、樹林沿いの草地などに生息する。成虫はアザミ類やヒヨドリバナ、トラノオなど花の多い場所によく見られる。				
【県内での生息状況】	低地から低山帯にかけて、やや局地的に分布する。1960年代までは大宮台地でも記録があったが近年は記録されていない。東部低地では2014年～2015年に蓮田市で記録された。丘陵部から低山帯にかけては安定して発生している。				
【特記事項】	近県ランク 東京区部：情報不足 (DD)。				

科名	タテハチョウ科	埼玉県(2018)	NT2	環境省(2015)	-
和名	ウラギンヒョウモン				
学名	<i>Fabriciana adippe pallescens</i> (Butler)	指定状況			-
【形態】	前翅長 31 ~ 37mm、開長 54 ~ 68mm の中型種。				
【国内分布】	北海道、本州、四国、九州				
【主な生息環境】	タチツボスミレ、マスマシレなどスミレ類の生える低地～山地の草地、草原に生息する。成虫はアザミ類やシシウド、ヤナギランなど花の多い明るい草原によく見られる。				
【県内での生息状況】	低山帯から山地帯にかけて生息するが、奥秩父の主脈尾根に点在する草原でも見られる。かつては平野部でもさいたま市や春日部市などで記録があったが近年はほとんど記録がない。現在はときがわ町から山地帯にかけて分布する。				
【特記事項】	近県ランク 東京区部：絶滅 (EX)、千葉：最重要保護生物、神奈川：絶滅危惧 I B (EN)、東京北多摩：情報不足 (DD)。				

科名	タテハチョウ科	埼玉県(2018)	NT2	環境省(2015)	-
和名	アサマイチモンジ				
学名	<i>Ladoga glorifica</i> (Fruhstorfer)	指定状況			-
【形態】	前翅長 25 ~ 33mm、開長 54 ~ 63mm の中型種。				
【国内分布】	本州。日本固有種				
【主な生息環境】	スイカズラ、ハコネウツギなどスイカズラ科植物の生える平地～山地の林縁。				
【県内での生息状況】	イチモンジチョウよりも分布はやや平野部に偏る傾向があり、また生息地はやや局所的である。多くの生息地でイチモンジチョウより個体数が少ない傾向だが、県東部平地の一部の産地では両種の個体数はあまり変わらない。				
【特記事項】	近県ランク 東京：絶滅 (EX)、神奈川：絶滅危惧 II 類 (VU)、千葉：要保護生物。				

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

魚類・円口類

昆虫類

甲殻類

多足類

クモ目

軟体動物

扁形動物

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
魚類・円口類
昆虫類
甲殻類
多足類
クモ目
軟体動物
扁形動物

科名 タテハチョウ科
埼玉県(2018) NT2 環境省(2015) -

和名 **ミスジチョウ**

学名 *Neptis philyra excellens* Butler 指定状況 -

【形態】 前翅長 32 ~ 42mm、開長 55 ~ 74mm の中型種。北海道産は小型になる傾向。

【国内分布】 北海道、本州、四国、九州

【主な生息環境】 イロハモミジ、ハウチワカエデなどカエデ科植物の生える低地～山地の雑木林や疎林沿いなどに生息する。

【県内での生息状況】 1960年代までは川口市など平地でも見られたが、近年は平野部の記録はほとんどなく、大宮台地では絶滅した。現在は丘陵地から低山帯にかけて広い範囲で見られるが、分布はやや局地的。比企、飯能の丘陵帯でも個体数は多くない。秩父地方では比較的普通に見られる。

【特記事項】 近県ランク 東京区部：絶滅 (EX)、千葉：要保護生物、東京北多摩：情報不足 (DD)。

科名 タテハチョウ科
埼玉県(2018) NT2 環境省(2015) -

和名 **クジャクチョウ**

学名 *Inachis io geisha* (Stichel) 指定状況 -

【形態】 前翅長 28 ~ 35mm、開長 50 ~ 66mm の中型種。

【国内分布】 北海道、本州

【主な生息環境】 イラクサ科植物の生える山地の草原に生息。成虫は花の多い草原や樹林縁の開けた草地などでよく見られる。北海道では平地にも分布する。

【県内での生息状況】 低山帯から亜高山帯に分布するが低山帯では産地は局地的。平野部での記録は越冬個体で、土着ではない。現在は秩父地方の山地を中心に産地があるが、最近では奥秩父の山間部でも個体数が減少傾向であるため、本書から新たに掲載種となった。

【特記事項】 近県ランク 神奈川：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)。

科名 タテハチョウ科
埼玉県(2018) NT2 環境省(2015) -

和名 **ジャノメチョウ**

学名 *Minois dryas bipunctata* (Motschulsky) 指定状況 -

【形態】 前翅長 25 ~ 35mm、開長 46 ~ 65mm の中型種。

【国内分布】 北海道、本州、四国、九州

【主な生息環境】 ススキ、ノガリヤスなどイネ科植物やヒケガスゲなどカヤツリグサ科植物の生える低地～山地の明るい草地や草原に生息。

【県内での生息状況】 低地から山地帯にかけて記録があるが、産地は局地的である。1970年以前は東部低地や大宮台地にも見られ、比企郡や狭山丘陵の草原に多産したが、現在では中川・加須低地と大宮台地では絶滅している。秩父の山間部では比較的多くの個体が見られる。

【特記事項】 近県ランク 東京区部：絶滅 (EX)、千葉：要保護生物。

科名	セセリチョウ科	埼玉県(2018)	NT2	環境省(2015)	-
和名	キバナセセリ				
学名	<i>Bibasis aquilina chrysaeglia</i> (Butler)	指定状況			-
【形態】	前翅長 20～24mm、開長 39～45mm の小型種だがセセリチョウとしては大型の種。				
【国内分布】	北海道、本州、四国、九州				
【主な生息環境】	ハリギリの生える樹林縁に生息。成虫は登山道の路上や路傍の花などで良く見られ、イケマ、トラノオなどの花に集まり、獣糞で吸汁、湿地で吸水する。				
【県内での生息状況】	これまでに小川町、秩父市、小鹿野町で記録がある。現在は奥秩父の山地を中心に産地があるが、もともと個体数は多くなく、最近は記録が少なくなっているため、本書から新たに掲載種となった。				
【特記事項】	近県ランク 茨城：絶滅危惧ⅠA (CR+EN)、東京：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)、栃木：要注目種。				

科名	セセリチョウ科	埼玉県(2018)	NT2	環境省(2015)	NT
和名	ギンイチモンジセセリ				
学名	<i>Leptalina unicolor</i> (Bremer et Grey)	指定状況			-
【形態】	前翅長 15～18mm、開長 28～34mm の小型種。				
【国内分布】	北海道、本州、四国、九州				
【主な生息環境】	ススキ、チガヤ、オニノガリヤスなどの生える草地に生息。				
【県内での生息状況】	県内では河川流域の草地、休耕田跡など草原に広く分布しているが産地は局地的である。				
【特記事項】	近県ランク 茨城：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)、群馬・長野・神奈川：準絶滅危惧 (NT)、千葉：一般保護生物、栃木：要注目種。				

科名	セセリチョウ科	埼玉県(2018)	NT2	環境省(2015)	-
和名	ホソバセセリ				
学名	<i>Isoteinon lamprospilus lamprospilus</i> C. et R. Felder	指定状況			-
【形態】	前翅長 14～20mm、開長 30～40mm の小型種。				
【国内分布】	本州、四国、九州				
【主な生息環境】	ススキ、オオアブラススキ、アシなどのイネ科植物の生える平地～山地の荒れ地、林内の開けた空間、河川敷などに生息。				
【県内での生息状況】	かつては低地にも局地的に生息していたが、現在は丘陵から低山帯に分布している。丘陵から低山帯にかけての産地も局地的である。				
【特記事項】	近県ランク 東京区部：絶滅 (EX)、神奈川：絶滅危惧ⅠB (EN)、千葉：重要保護生物、栃木：準絶滅危惧 (NT)、東京北多摩：情報不足 (DD)。				

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

魚類・円口類

昆虫類

甲殻類

多足類

クモ目

軟体動物

扁形動物

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
魚類・円口類
昆虫類
甲殻類
多足類
クモ目
軟体動物
扁形動物

科名 セセリチョウ科 埼玉県(2018) NT2 環境省(2015) -

和名 **コチャバネセセリ**

学名 *Thoressa varia* (Murray) 指定状況 -

【形態】 前翅長 13～16mm、開長 30～35mm の小型種。

【国内分布】 北海道、本州、四国、九州

【主な生息環境】 クマザサ、ネザサ、アズマネザサなどの生える平地～山地の雑木林や樹林縁に生息する。

【県内での生息状況】 低地から亜高山帯にかけて分布しているが、平野部の産地でも個体数は多くはない。秩父山地や丘陵部では現在でも普通に見られているが、特に平野部や東部の低地では近年になって著しく減少しているため、本書から新たに掲載種となった。

【特記事項】 隣接都県では本種は「絶滅の恐れのある野生生物」に指定されていない。

科名 セセリチョウ科 埼玉県(2018) NT2 環境省(2015) -

和名 **オオチャバネセセリ**

学名 *Polytremis pellucida pellucida* (Murray) 指定状況 -

【形態】 前翅長 16～21mm、開長 32～40mm の小型種。

【国内分布】 北海道、本州、四国、九州

【主な生息環境】 アズマネザサ、クマザサ、メダケなどのタケ・ササ類の生える平地～山地の樹林縁の草地や草原、河川敷などに生息する。成虫は様々な花を訪れる。

【県内での生息状況】 低地から山地帯にかけて広く分布するが、平野部、特に低地では 1980 年代後半から徐々に個体数が減少し、2000 年以降は急減した。しかし、記録が全く途絶えたわけではなく、また丘陵部から山地帯での個体数はそれほど減少していない。

【特記事項】 近県ランク 千葉：重要保護生物、神奈川：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)、山梨：準絶滅危惧 (NT)、栃木：要注目種。

科名 タテハチョウ科 埼玉県(2018) LP 環境省(2015) -

和名 **ウラジャノメ**

学名 *Lopinga achine achinoides* (Butler) 指定状況 -

【形態】 前翅長 22～31mm、開長 44～56mm の中型種。

【国内分布】 北海道、本州

【主な生息環境】 ヒメノガリヤスなどイネ科植物、ヒメスゲなどカヤツリグサ科植物の生える山地の樹林縁や溪流沿いの草地などに生息する。

【県内での生息状況】 山地帯～高山帯に局地的に生息し、奥秩父の県境になる亜高山帯尾根沿いなどで記録がある。現在は秩父の広い範囲で、十数ヶ所の産地が確認されている。

【特記事項】 近県ランク 栃木：準絶滅危惧種 (NT)。